

**平成26年度（2014年度）
事業計画書**

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

平成26年度（2014年度） 事業計画書

目次

I. 活動方針

II. 協会の会務

III. 委員会の活動計画

1. 綱領委員会
2. 法務委員会
3. ISO20252 認証協議会
4. 公的統計基盤整備委員会
5. 出版委員会
6. 研修委員会
7. カンファレンス委員会
8. 調査技術研究委員会
9. 国際委員会
10. 人材マネジメント委員会
11. プライバシーマーク審査会

IV. 業界関連および会員支援活動等

V. 2014年度収支予算

I. 活動方針

日本経済はアベノミクスによる大胆な経済政策により、行き過ぎた円高の是正、株価上昇、これらによる内需の回復が見られ、経済全体も緩やかに拡大してきている。今後については、消費増税後の反動や海外景気の減速懸念があるものの、企業収益の改善や復興・オリンピック需要により、継続的な成長が予測できる状況にある。

このような経済環境の中、我々リサーチ業界は我が国の内需に期待する半面、グローバル化の進展、ICTデバイスの進化やビッグデータの活用など、様々な変化への対応が求められてきており、我々産業や協会加盟各社に対しても、今までに無い課題が現れてきている。

一つは、昨年の慶応義塾大学、新保教授のご講演「ビッグデータ時代の情報セキュリティ」でも触れられていたパーソナルデータを始めとした情報セキュリティへの対応である。これらについては、同時に諸外国でも議論やガイドライン作りが開始されており、JMRAとしても、関係各委員会で議論をいただきながら、しっかりとした対応を進めていく必要がある。

また、この情報技術の進歩に合わせ、JMRA 会員各社が企業価値向上、事業拡大に向け、様々なマーケティング関連の新規ビジネスへの取り組みを行っておられ、その成果は大いに期待をするところであるが、一方、過去より培ってきたマーケティング・リサーチやリサーチ産業に対する信頼を今後も維持していくことも重要である。業界の健全な発展や新たな会員社の入会促進のためにも、より分かり易い具体的なガイドライン等の整備を行っていかねばならない。

今年度は、このような最近の課題も踏まえ、更に、昨年の年度方針で上げた「すべての活動はクライアントと共に」を引き継いで、「リサーチの産業のプレゼンス向上」のための諸施策を推進していくこととする。

平成 26 年度の活動の重点事項

1) 時代に即したリサーチガイドラインの見直し

リサーチやリサーチ産業のおかれた環境・リサーチ手法などを見据え、新たな時代に適応するガイドラインの見直しを検討する

2) 委員会活動の推進と連携

JMRAの活動は、会員各社から参加いただいた各委員による活動によって推進されている。今までと同様、それぞれ諸活動へのご尽力をお願いするだけでなく、協会三役、事務局も、より成果が上がるべく委員会サポートや連携に努力していく。

3) 関係諸官庁との連携および関連情報の会員社への提供

管轄官庁と会員各社のパイプの役割も業界団体の責務である。経済産業省、総務省、中小企業庁など関係官庁にリサーチ業界の実情をご理解いただき、政策への反映を働きかけると共に、ここから提供される会員各社の経営や営業に役立つ各種の情報（税制、補助金、法令改正など）を収集し、タイムリーに提供する。

4) 国内外に対する情報発信、交流の促進

カンファレンスや出版活動、その他あらゆる場面や手段を通じて、日本国内のみならず海外に向けて JMRA の活動や現在のリサーチ関連情報を広く発信すると共に、会員各社のクライアント、内外の関係団体（国内・海外のリサーチ関係団体、学会など）、関係官庁との交流を促進し、リサーチのプレゼンス向上や正会員、賛助会員の拡大につなげていく。

以上

II. 協会の会務

1. 定時総会、理事会、運営委員会の開催

定時総会、理事会、運営委員会を以下の通り開催する。

- (1) 定時総会「5月29日（木）」
- (2) 理事会「5月29日（木）、7月、9月、11月、2015年1月、3月、4月」
- (3) 運営委員会「6月、8月、10月、2015年2月」

2. 各種交流会・懇親会の開催

- (1) 総会懇親会
- (2) 経営者フォーラム
- (3) トピックスセミナー

Ⅲ. 委員会活動計画

1. 綱領委員会

マーケティング・リサーチ業界を取り巻く環境は、インターネット環境や SNS の世界的な普及などにより、激しい変化の中にある。その変化の中において、マーケティング・リサーチの社会的地位を損なわない為にマーケティング・リサーチ倫理の確立を目的として活動を行う。業界をとりまく変化と各国の個人情報保護の動きを確認しつつ、次世代の綱領について議論を続ける。同時に会員社向けに参考資料として、主要な ESOMAR Guideline の翻訳を行う。

2. 法務委員会

激変する社会環境とリサーチ環境を踏まえつつ、新たな法務課題の対応を検討し、時代に即した会員社向けサポートを行う。

- (1) 法務ハンドブックⅢ増補版のリリース
- (2) 新たな法務課題に対する対応
- (3) CLT調査における「道路使用許可証」対策の資料の作成と今後の対策を検討
- (4) 法律相談の開催
- (5) 法務セミナーの開催

3. ISO20252 認証協議会

リサーチユーザー、リサーチ会社、審査機関、官庁とともに議論を進め、国際規格である ISO20252 の普及促進に努める。同時に国際審議団体として TC225 (Technical Committee) などの国際会議に参加し、日本からの要望を伝えるとともに各国での本規格取得状況などの情報収集を行う。本年度は昨年度に作成したテンプレート等を用い、中小企業に向けた本規格の取得数を拡大させる。

4. 公的統計基盤整備委員会

<展望>

2009年3月に閣議決定された「公的統計の整備に関する基本的な計画」は今年度から2期目のステップに入る。「統計調査における民間事業者の活用に係るガイドライン」は「2期公的統計の整備に関する基本的な計画(仮称)」を反映し、ISO20252と整合性をとりながら、公的統計の質の確保という深堀をすることとなった。委員会はその流れを真正面か

ら受け止めて、公的統計の民間委託を推進する。引き続き官民のコミュニケーションをとっていく。

＜本委員会の活動目的＞

- (1) 各府省等の民間事業者に対する要求に対して、事業者の実態を明らかにし、かつ、事業者とその従業者の能力向上に資する活動を行う
- (2) 公的統計における事業者側の要求も明らかにし、府省等に正確に伝達する
- (3) これらの活動を通して、各府省と民間事業者の相互理解・共通認識の進展と公的統計の民間開放の成果拡充に寄与する。

＜活動詳細＞

- (1) 月例会の開催（幹事会、全体会議、小委員会）
- (2) 各府省統計主管セクションへの表敬訪問
- (3) 講演会、意見交換会（内閣府・統計委員会・総務省・経済産業省等を予定）
- (4) 内閣府統計委員会・入札監理小委員会等への傍聴参加
- (5) 「調査インフラ等に関する実態調査」の企画・実施
- (6) 2014年度民間調査機関を活用した統計調査の一覧表作成
- (7) ISO20252 認証協議会と連携して公的統計のガイドライン等に基づく研究
- (8) 「公的統計市場に関する年次レポート 2014」（報告書）の作成

＜産・官・学連携＞

- (1) 総務省政策統括官室・各府省統計主管部署 WG との意見交換
- (2) 内閣府公共サービス改革推進室との意見交換
- (3) 日本統計学会・統計検定センターとの共同活動（資格認定検定試験）
- (4) 資格認定検定試験セミナー実施の検討

5. 出版委員会

出版委員会は、日本マーケティング・リサーチ協会機関誌等の編集・発行を通じて、調査機関と調査ユーザー、研究者、学生等リサーチに関わる人たちとのパートナーシップをはかり、マーケティング・リサーチの役割や意義を高めてゆくことをミッションとしてきた。2014年度は、更なる内容充実を目指しながら年間3号の出版を行うと共に、WEBコンテンツの充実、会員以外に向けた販売強化など、協会外に向けた施策を検討する。

6. 研修委員会

引き続きセミナーの企画・開催を通じて、業界内外のリサーチャーの知識、技能向上に

貢献し、マーケティング・リサーチ業界のプレゼンス向上に寄与する。

具体的には、各講座の内容や編成方法等を見直しながら JMRA セミナー体系の改善を続けると共に、新設講座の検討、Facebook 等の新しいツールをも活用した効果的な案内方法の検討を進める。

本年度は次のセミナーについて、開催予定である。

総合

- 「2014 年度新人リサーチャー合宿セミナー」
- 「マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー」シリーズ(「総論編」および「各論編 1」、「各論編 2」)
- 「リサーチャーのためのプレゼンテーションセミナー」
- 「リサーチャーのためのワールドカフェ
仮説発見とインサイト生成に役立つワークショップの活用法講座」(新設講座)

統計関連講座

- 「統計的データ解析の基礎講座」
- 「実践力強化のための基礎統計学講座」
- 「多変量解析の使い方入門講座」
- 「やさしく学ぶ統計分析講座」
(事前講義「R 言語:インストールから基本操作講座」を含む)
- 「多変量解析の活用講座」
(事前講義「R 言語:インストールから基本操作講座」を含む)
- 「質的データのマイニングのための対応分析法講座」

定性調査関連講座

- 「定性調査の基礎講座」
- 「定性調査の分析と企画(ラダリングと調査課題の立て方)講座」
(追加講義を含む)
- 「インタビューテクニック講座」
- 「消費者インサイトー隠れた心理と本音の探索力を磨く講座」

7. カンファレンス委員会

JMRA アニュアル・カンファレンスは、マーケティング・リサーチに関わる関係者に対する情報発信と情報交流を活発化させる場である。

昨年度は、リサーチユーザー側の参加者増を試み、JMRA 委員会の連携コンテンツなどを揃え、協会活動方針を具現化したカンファレンスを開催した。

本年度も、業界をとりまく変化を、リサーチャー、リサーチユーザーに広く情報発信できる刺激的なカンファレンスの開催を目指す。開催時期は、11月頃とする予定である。

8. 調査技術研究委員会

マーケティング・リサーチ技術の開発研究、新たな技法や今日的な問題を取り上げ、その活用や問題解決の方向を探り、業界内外に情報発信を行いマーケティング・リサーチ業界の地位向上を図ることを目的に、研究を進めている。本年度は昨年度設定した、「MROC (Marketing Research Online Community) の効果的な活用方法について」の継続的研究を進め、報告書を作成すると共に、報告会セミナーまたは出版物で、研究内容を内外にアピールすることとする。

9. 国際委員会

マーケティング・リサーチ業界のグローバル化を目標に、国際委員会は、若手リサーチャーのグローバル化に向けて活動する。年々活気を帯びてきている「国際若手フォーラム」を継続して行い、さらにリサーチ業界の海外情報を収集し、JMRA ホームページを用いて会員社に向けて発信していく。同時に日本の業界情報などを海外のリサーチ協会へ発信していく。

10. 人材マネジメント委員会

昨年度まで実施していた「こころの健康向上委員会」を「人材マネジメント委員会」と名称変更し、メンタルヘルスを中心としたテーマの活動から、人材育成・マネジメント・職場のコミュニケーションという内容へ活動範囲を広げて、会員社向けのサービスを向上させていく。委員会で企画した人材マネジメント等に関連する講演会や勉強会などの開催を検討する。

11. プライバシーマーク審査会

(1) 指定審査機関としての PMS 構築

プライバシーマーク指定審査機関として、プライバシーマークと同等の PMS の運用を目指し、昨年度より構築を開始している。年度内に運用開始予定。

(2) 審査体制の強化

新しい審査方式として、「現地審査計画書」の導入トライアルを昨年度より開始している。年度内に本運用を開始予定。

(3) 個人情報保護法改訂への取り組み

改訂が予想される個人情報保護法に関する最新情報を入手し、審査会としての対応を検討する。

IV. 業界関連および会員支援活動等

(1) 協会広報活動の推進

業界の認知度アップの為の広報活動

- 1) 英語版ホームページのリニューアル
- 2) メールニュース登録者数の拡大
- 3) 関連団体フォーラムへの展示参加

(2) 協会サービスの充実

- 1) リサーチャーズ手帳の発行
- 2) 正会員社調査員身分証明書／会場テスト用証明書の発行
- 3) 会議室レンタルサービスの広報促進
- 4) JMRA 所蔵図書・資料の閲覧サービス

(3) 他団体との関係強化による交流の促進（国内外）

- 1) 官庁、関連団体、学会との情報交流
- 2) APRC (ASIA PACIFIC RESEARCH COMMITTEE)、
GRBN (GLOBAL RESEARCH BUSINESS NETWORK) 加盟国との情報交流
- 3) ESOMAR 他海外の関連団体の情報交換
- 4) ISO 国際事務局との情報交換

(4) 調査対象者、リサーチユーザーに向けた取り組み

- 1) マーケティング・リサーチに関する苦情の処理
- 2) 一般企業への「専門調査会社 紹介」サービス

(5) 協会運営関連業務の強化

- 1) 事務局内PMSの運用開始とセキュリティ強化
- 2) 委員会・セミナー開催に関する事務局業務
- 3) カンファレンス開催関連業務
- 4) 事業計画プレゼンテーションの開催
- 5) 経營業務実態調査の実施
- 6) 統計検定試験の代理受付
- 7) 会員社数の増加の促進

	2012年度3月末	2013年度3月末	2014年度拡大目標
正会員社	135社	132社	134社(2社増)
賛助会員(法人)	81社	85社	90社(5社増)
賛助会員(個人)	130人	128人	135人(7人増)

V. 2014年度収支予算

別冊子参照

以下 余白